



“河合隼雄さんの本” 園長 高杉 洋史

夏休みはいかがお過ごしでしたか。連日園児から、おばあちゃんちでの花火が楽しかったなどの楽しい話し声聞きこえています。私は芋畑の草刈りが気になりつつ、気温四十度近くの環境に恐れをなし、エアコンの部屋で読書三昧の毎日でした。久しぶりに河合隼雄さんの本を開いていたら、文化庁長官時代に当時の総理大臣から「二十一世紀日本の構想」懇談会の座長に指名され、多くの方との意見交換のうちに二十年後を見据えた報告書を提出されていることを知りました。なんとその二十年後って今のことではありませんか。そう思って読むと二十年前に面白いアイデアをたくさん出されていることに驚かされます。十八歳選挙権のことなどはすでに実現しています。多くのアイデアのなかで、教育に関する面白いアイデアがありましたのでご紹介します。

【学問の知見は日々増える一方なので、義務教育の教育内容も精選しないと小中学生も先生の負担も増える一方です。したがって義務教育の教育内容は根源的に見直さなければなりません。あえて過激な提案をすると現在の教科内容を五分の三までに圧縮し、義務教育週三日制を目指してはどうだろうか。週三日の内容をマスターしきれない子には残りの二日で手厚いサポートをし、理解の早い子は残りの二日で自分の好きな勉強をもらう。義務教育の小中学校時代にもう少し家庭での親子の時間を増やす環境を作ってはどうか。もちろん子どもたちにも先生にも保護者にもこれまで以上の財政支援を行う。】

西暦二〇〇〇年といえば、パソコンはウィンドウズ95のころで、よくフリーズしていたものです。調子が悪くなるとフロッピーディスク十五枚のSSを二時間かけて入れ直していました。インターネットのホームページもさほどなく、電話帳のような紙媒体の出版物があったことなど、今の保護者の皆様には信じられないでしょう。そもそもフロッピーディスクなんてご存知ないかもしれませんね。そんな二十数年前に批判覚悟で、教科内容や義務教育の在り方に対して自由なアイデアを公にし、議論の俎上にのせた河合隼雄さんはじめ多くの皆さんの柔軟な思考に出会えてうれしい夏休みでした。

本園の幼児教育もこの二十年でより良い方向に進むように努めてきました。これからも担任と副担任のチームティーチングの連携をさらに深め、アシスタントティーチャーの活躍とか、子どもたちと先生がゆとりをもってすごせる幼稚園の実現にもっともっと力を注いでいこうと思っています。





ミセスカレッジ 子育て講座より

第一回後半

教頭 高杉 美稚子



後半は、絵本の紹介から始まりました。ほとんどがワークで盛り上がりました。

1、絵本の紹介

- ① **きもちの絵本**ではそれぞれの登場人物、特にお母さまを取った男の子の気持ちで描かれた絵本です。気持ち、その両親の気持ちについて頂きました。
- ② **だかっの絵本**では、親の言い通しにはなじめないけれど、親の愛とおおらかな心で親子の関係を理解して頂く絵本でした。最後のページは、
- ③ **えらい、えらいの絵本**では、当たり前のことを当たり前のJenna Jyは当たり前ではない、だから当たり前じゃないとわかる周りの人、周りの人のいい所、焦点を当てることになりました。よう紹介でした。

特に「だかっ」の絵本の最終ページは衝撃的な一言で終わるので、多くの保護者の方がびっくりしたり、衝撃を受けられたようでした。私も初めて読んだ時、とても衝撃的で印象に残っており、各大学で幼児教育を目指す学生や、他の所で講演を頼まれた時は、必ず紹介させて頂く絵本です。直しければ手に取られてみることを思い起こします。

2、赤のワーク

周りを見て赤いものをさがすゲームです。目をしぼりながら、赤いものをさがすゲームと答えることは難しい場合が多いです。なぜなら、赤いものしか見ていなかったので答えることが当然です。青いものはその人のいいところ、赤いものはその人の欠点だとしたらどうでしょうか。私達はその人の欠点はわかりにくい、いいところは見えにくいのです。そして、どんな人の欠点も視点を変えてみると長所に

変わります。

嫌だ、失敗と思っていた出来事も、人や自分の嫌いなところも捉え方を変えれば学びに変わります。自分の視点、捉え方、感じ方、考え、思い込みなどの捉え方を変え、自分が行動変化し成長するよう、リラックスして人生を楽しんでいくことが出来、手助けができれば、こんなに嬉しいことはありません。

3、姿勢編集

最近姿勢を見上げていますか。落ち込んでいる人は自分でも知らないくらい、口角が下がって、首はうなだれて歩いています。時には右を向いたり、屋根の上には何かがあるか見たり、緑を見たりするようになります。落ち込んでいる子どもは肩を上げたり、あごを少し持ち上げてあげただけでも瞬間的に気持ちが変わることもあります。

又、子ども達が怪我をしたとき、肩をいからせて「痛かった」というか、肩を落して言うかどちらの伝えかたが変える必要があります。肩をいからせている時は「すごい、大変、こんな大きな怪我、我慢してすごい、すごいね」と大騒ぎして認める言い方、肩を落としていた時は「大丈夫、大丈夫、大したことはない、ちゃんと手当てしてあげるから心配しないで」と静かに受け止め安心する伝え方がよい気持ちに寄り添えます。

4、1枚の絵

白い画用紙を一人一枚配り、等分また2等分また3等分して、何に見えぬか、考えてもらい発表してもらいます。様々な答えが出てきますが、お母さん対象の研修では豆腐、パン、納豆、牛乳のパックや、冷蔵庫、洗濯機、幼稚園の先生の研修ではピアノの教則本、机、椅子、

